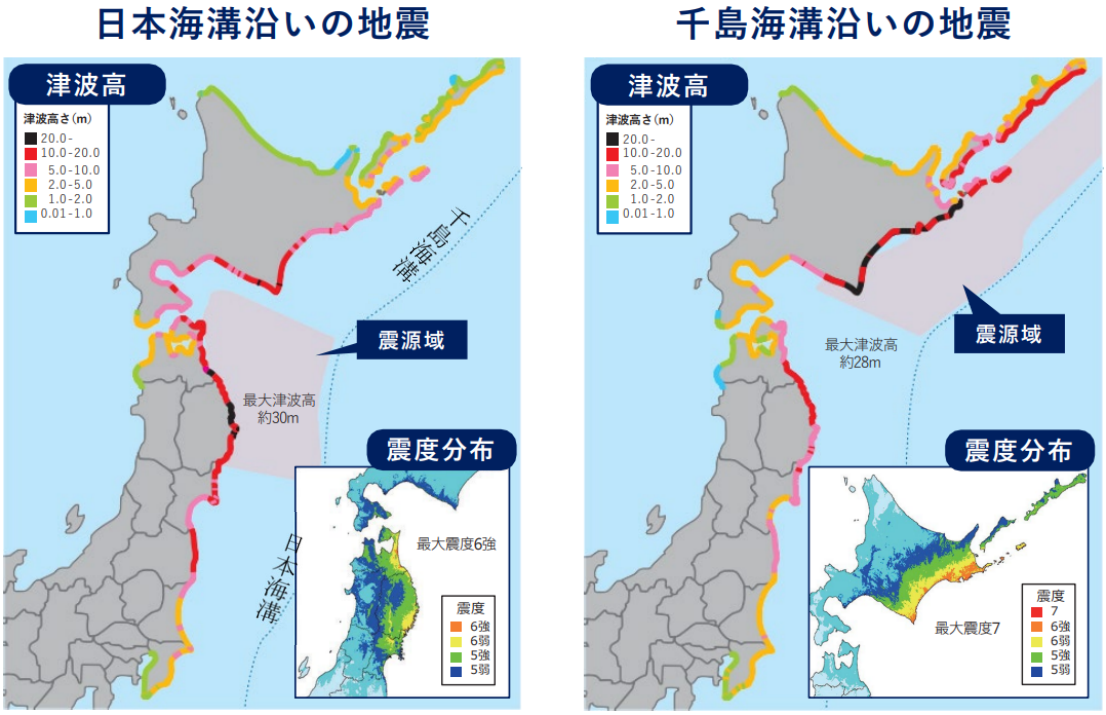
【防災メモ】
～日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震と「北海道・三陸沖後発地震注意情報」～

○日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震

日本海溝・千島海溝沿いの領域では、過去に巨大地震が繰り返し発生しています。北海道から岩手県の太平洋沿岸の津波堆積物の調査によると、この領域では、平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）に匹敵する津波を発生させた巨大地震が約 300～400 年間隔で発生したとされています。前回の 17 世紀に発生した巨大地震からの経過時間を考えますと、次の巨大地震が切迫していると考えられています。

2021 年 12 月に、内閣府が公表したこの巨大地震の被害想定によりますと、死者数は全国で最大約 19 万 9 千人、道内でも約 13 万 7 千人と想定されています。特に冬季に発生した場合、道内では、吹雪や積雪により避難に時間を要することや、屋外や寒い屋内での避難は低体温症のリスクが生じるといった、積雪寒冷地特有の課題があります。ただし、事前の備えと迅速な避難を行うことで、人的被害の８割は軽減可能とされています。



日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震で想定される津波と震度

○北海道・三陸沖後発地震注意情報

地震は、ほとんどが突発的に発生するため、平時から対策を徹底することが重要です。一方で、この領域では、マグニチュード（M）７以上の地震が発生した後、数日程度の短い期間をおいて、さらに大きなマグニチュード（M）８以上の巨大地震が続いて発生する例が確認されています。世界では、このような巨大地震の発生の事例は、100 回に１回程度です。このため、実際に発生する確率は低いものの、一人でも多くの人命を救うため、この領域で、断層の大きさやすべり量から地震の規模を求めるモーメントマグニチュード（Mw）７以上の地震が発生した場合に、次のマグニチュード（M）８以上の巨大地震への注意を促す「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発表します。

この情報が発表された場合、直ちに避難をする必要がありませんが、防災対応をとるべき自治体にお住いの方は、１週間程度は、普段の生活を続けた上で、地震への備えの再確認、例えば、家具等の固定、備蓄品の確認、避難場所・避難経路の確認、家族等の連絡方法の確認、また、津波浸水想定域にお住いの方は、大きな揺れを感じたり、津波警報を見聞きしたりした際に、すぐ避難できるような態勢を整えておくようにしましょう。

○WEB サイト

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」（札幌管区気象台 HP）

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」普及啓発用動画（YouTube）

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」子供向け動画（YouTube）